

2020年度第5回(一社)日本生物物理学会理事会議事録

日時:2021年4月24日(土)12:30~16:55

場所:大阪大学蛋白質研究所(TV会議)

出席者: 理事総数 17 名 出席理事 17 名 (代表理事を含む)

代表理事(会長)	原田 慶恵	理事(副会長)	須藤 雄気
理事(副会長)	小松崎 民樹	理事	秋山 修志
理事	秋山 良	理事	飯野 亮太
理事	大上 雅史	理事	岡田 眞里子
理事	上久保 裕生	理事	北尾 彰朗
理事	小島 清嗣	理事	古寺 哲幸
理事	寺川 剛	理事	西坂 崇之
理事	細川 千絵	理事	村田 武士
理事	柳澤 実穂	理事	

監事: 監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事	笹井 理生	監事	豊島 陽子
----	-------	----	-------

オブザーバー:

邦文誌編集委員長	高橋 聡
2021年度年会委員長	
欧文誌編集委員長	中村 春木
ウェブサイト編集委員長	飯野 亮太(理事と兼任)
2022年度年会委員	相沢 智康(金城 政孝 委員長の代理)
2021・2022年度会長候補	野地 博行
2021・2022年度理事候補	今田 勝巳
2021・2022年度理事候補	佐甲 靖志
2021・2022年度理事候補	相沢 智康
2021・2022年度理事候補	片山 耕大
2021・2022年度理事候補	田中 良和
2021・2022年度理事候補	田端 和仁
2021・2022年度理事候補	永井 健治
2021・2022年度理事候補	渡邊 力也
関東支部長	高橋 浩
東北支部長	田中 良和

陪席者:

BPPB サポートスタッフ 佐藤 正子
学会事務局 向井 牧子

議長:代表理事(会長) 原田 慶恵

議事録作成者: 古寺 哲幸

報告事項:資料番号

1. 2021 年度年会準備状況(高橋):報 1
2. 2022 年度年会準備状況(相沢)
3. 出版委員会報告(小松崎):報 3
4. 広告について(秋山修・小島):報 4
5. 男女共同参画・若手支援委員会報告(須藤):報 5
6. 賞・助成金推薦委員会報告(須藤):報 6
7. 滞納 3 年以上の会員への督促結果報告(大上):報 7
8. 地区報告 関東(高橋浩):報 8-1
 九州:報 8-2

その他

審議事項:

1. 2021 年度事業計画(案)(原田):議 1
 2. 2021 年度予算(案)(秋山修):議 2
 3. 出版委員会関連議題(小松崎):議 3
 4. 男女共同参画・若手支援委員会関連議題(須藤):議 4
 5. 監事候補の選出について(野地):議 5
 6. 2021・22 年度理事候補の追加推薦について(野地):議 6
 7. 功労会員、終身会員の新設について(上久保):議 7
 8. 会費に関する検討事項について(上久保):議 8
 9. 2021 年度サブグループについて(須藤):議 9
- その他

連絡事項:

1. 次回理事会日程について(原田)
 2021 年度定時社員総会・第 1 回理事会
 日時:2021 年 6 月 19 日(土)
 場所:オンライン開催

2. 定時社員総会開催について(必要書類のおしらせ)事務局より

- ・就任承諾書 2 通(理事候補の先生方全員。ご署名と個人の認め印での押印)
- ・印鑑証明書または住民票など本人確認書類(新規作成の理事。再任の理事は不要)

※詳細はあらためてご連絡する。

※新代表理事(会長)・新監事の必要書類は上記。別途案内する。

定足数の確認:

理事会の審議に先立ち、議長・原田慶恵氏より定足数の報告があった。

理事総数 17 名のうち、出席者 17 名により過半数を超えた。

報告事項:

1. 2021 年度年会準備状況

➤ 高橋聡氏より、2021 年度（第 59 回）の年会について準備状況が報告された。

(1) 開催形式に関して

新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、オンライン開催に決定した。

(2) Web 開催に必要な検討事項

a) プラットホームについて…昨年通りの Confit で進める予定だが、もう少し検討を進める。

b) 一般発表の形式について…昨年と同じようにオンライン上でのポスター発表にする形式と、Web 開催にして会場数を増やせるので、オーラルにした方が良いのではないかという意見も出た。全部オーラルにする案も含めて今後検討を進める。

c) 市民講座と、高校生発表会について…実行委員会で検討中である。

d) 懇親会について…去年は開催しなかったが、オンラインとはいえ、何か工夫できたらと考えている。

(3) オンライン学会における録音・録画に関する中村先生からの提案について

中村春木氏より、録音・録画を禁じることはせず、その二次利用を禁止することを周知したうえで、録音・録画はあり得ることを前提にした発表を用意してもらうことがよいのではないかという提案があった。発表内容の録音・録画については、①多くの人に記録を取ってもらうことで、研究成果の優先権を逆に主張できるというものや、②これまでの慣習を変えることになるので、慎重に議論すべきである、③積極的に成果を公開することで、生物物理学会のプレゼンスを外に発信する機会とすればよい、といった意見がでた。基本的には、録音・録画は認めないという従来のスタンスとし、一部のシンポジウムについては、演者の了承をえて、録音・録画を認めることとなった。

(4) 日程に関して

日程について説明があった。

(5) シンポジウムに関して

今までに 28 件の応募があった。新学術、学術変革の共催プログラムが 10 件だった。

「PDBj50 周年記念シンポジウム」が 1 件共催で申し込みがあった。サテライトシンポジウムのような形で、会期の前日に開催するという事でプログラムを検討している。

2. 2022 年度年会準備状況

相沢智康氏より 2022 年度年会準備状況について報告された。

➤ 準備状況

函館では、当初、一般発表はポスター発表、それ以外のシンポジウムはオーラルという形式を考えていたが、コロナの感染対策として、すべての発表をオーラル形式にすることが可能かを検討している。懇親会として用意していた会場は、着席しか認めていない。対面での実施となると、かなり制限が多いというのが現状である。

3. 出版委員会報告

小松崎民樹氏より出版委員会の活動について報告された。

(1) 各号の進捗について

第 61 巻 2 号の生物物理の内容について、説明があった。

(2) 2021 年度第 1 回誌編集委員会

・生物物理誌は原稿が多く集まってきており、受理判定から半年以上経って掲載されるという状況になっている。そこで、1 号あたりのページ数を増加して、受理から半年以内には掲載できるようにしたいという提案がなされた。

・「私が影響を受けた論文」について、歴代会長についてはほぼ執筆依頼が終わり、今後は名誉会員の先生方に依頼をしていく。

・「キャリアデザイン談話室」は引き続き原稿依頼を進める。

・「ダイバーシティ」は、よい執筆候補者が挙がらなければ無理に継続しないという方針となっている。

(3) 生物物理誌の XML 化について

・web 編集委員会担当理事の飯野氏から生物物理誌の XML 化についての打診があり検討した結果が報告された。今後さらに生物物理誌編集委員会で検討し、次回以降に審議事項として挙げる予定である。

➤ BPPB 編集委員会からの報告

・4 月まで 13~14 編掲載されるので、1 年で 40 編くらい掲載される見通しとなっている。

・BPPB の事務担当が神瀬さんから佐藤正子さんに変わった。

・J-STAGE Data は、今までは試行期間だったが、本運用に移行することになった。

・J-STAGE セミナーで中村 BPPB 編集委員長に、『生命科学におけるデータサイエンスと J-STAGE Data への期待』という公演をいただいた。

・科研費の中間報告

当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれるという A 評価を頂くことができた。

➤ Web サイト編集委員会からの報告事項

・東工大の古田忠臣氏が新委員として参画されてされた。

・BPPB 誌に関して…ページのデザインが古くなっている。TOP ページをシンプルでわかりやすくするよう、検討中であることの報告があった。

4. 広告について

秋山修志氏より広告について報告された。

2020 年度の実績は 756,700 円となっている。2021 年度、とめ研究所様からの登録が消えたがクロマテクノロジージャパン様から年間支援スポンサーとして登録を頂いている。見込みとしては 2021 年度 785,400 円ということではほぼ横ばいである。

5. 男女共同参画若手支援委員会報告

須藤雄気氏より、男女共同参画若手支援委員会の活動について報告がされた。

➤ 仙台年会でのシンポジウムについて

ワークライフバランスに関連したものをを行うことで合意を得ている。演者候補は決定している。現理事で要旨集まで作り、次期の理事の方に当日運営からお任せする。

➤ 男女共同参画協会連絡会についての報告

3 月 23 日に運営委員会が開催された。現在 19 期は、日本技術士会が幹事学会をしているが、来期 20 期(2021 年 11 月 1 日から 1 年間)は生物物理学会が幹事団体となる。連絡会では、“無意識のバイアス”という話題があり、日本生物物理学会でもホームページにリンクを張っている。

➤ 2020 年度の生物物理学会若手の会から夏の学校の報告

オンライン開催になり参加 235 名という過去最大人数が日本全国から集まった。これまで学会から毎年 20 万円を補助していたが、今年度は 10 万円の増額希望があり 30 万円補助したが、オンライン開催になったため、全額返還された。

➤ 給付型奨学金・学生の学会費について

コロナ禍で収入が減っている学生がいることや、博士後期課程に進学する学生が減っている問題の解決のために、給付型の奨学金制度を作ってほしいという希望が若手から提案された。一方で、学生の学会費が他学会に比べて高いという問題もある。若手の会でもさまざまな意見があり、それぞれの主旨についても、完全に理解できているとは言えない状態なので、再度どのような支援が必要であるか意見をまとめてもらうことになった。

6. 賞・助成金推薦委員会報告

須藤雄気氏より賞・助成金推薦委員会の報告があった。

令和 3 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」に電通大の中根大介氏の受賞が決まった。第 18 回日本学術振興会賞に 2 名推薦した。アメリカの Biophysical Society の賞に推薦していく仕組みを作っていくことが重要であるという意見がでた。

7. 滞納3年以上の会員への督促結果報告

大上雅史氏より、滞納3年以上の会員への督促結果が報告された。現在、会員数が減少傾向にあるということが報告された。サブグループの企画等で新規入会を促し、会員減少を食い止めたい。

8. 地区報告

- 関東支部
高橋浩氏より関東支部のメンバーの紹介と会計報告があった。
- 九州支部
代表が欠席のため資料の確認のみ行った。
- 中部支部
飯野亮太氏から、次回に報告する旨が述べられた。

その他の報告事項

原田慶恵氏より、その他の報告事項が述べられた。

- 生物物理 60 周年記念本の出版について
化学同人と2~3回メールのやりとりをしたが、この企画は事実上なくなっている。
- 大沢先生の本の英語化について
大沼氏をリーダーとして原稿の見直しを行っている。作業が遅れ気味で、5月の連休明けぐらいに何らかの返信を頂けるのではないかと思う。その後、Damien R. Hall氏に英語のチェックをお願いし、BPPB誌に数回に分けて掲載していく予定である。
- 物理オリンピックとの共催について
物理オリンピックとの共催が決まった。年間10万円を3年間にわたって支払うということで合意した。物理オリンピックのホームページもぜひ訪れていただきたい。

審議事項:

1. 2021年度事業計画(案)

原田慶恵氏より、2021年事業計画書について説明があった。①国際的な研究協力推進というところに先月同意したIUPAB、国際純粋及び応用物理学連合C6との連携すること、②関連学術団体との連携及び協力というところに日本学術会議IUPAB分科会との連携すること、③国際的な研究協力の推進のところに、アメリカの学会との協力すること、を付け加えたものが承認されることになった。

2. 2021 年度予算(案)

秋山修志氏より、2021 年度予算案について説明があった。若手の夏の学校への補助を 30 万円から 40 万円に修正、ウェブサイト管理費用の計上漏れを修正したうえで、承認することになった。

3. 出版委員会関連議題

小松崎民樹氏より、BPPB 編集委員会関連議題である、組版作成の簡略化の試行と BPPB の紹介と論文投稿の勧誘のための宣伝・広告の実施について説明があり、承認された。

4. 男女共同参画若手支援委員会関連議題

- 生物物理若手の会夏の学校開催概要と本学会からの支援について
須藤雄気氏より、夏の学校開催概要、予算案について説明があったのち、40 万円支援することが承認された。
- 若手奨励賞関連
須藤雄気氏より、若手奨励賞・学生発表賞について説明があり承認された。懇親会時に受賞者の発表する件については、年会実行委員会に一任することとなった。
- 生物科学連合関連
須藤雄気氏より、生科連で生物物理学会が所属すべき委員会の希望を第 1 希望…地球生物プロジェクト委員会、第 2 希望…科研研究費、人材育成委員会、第 3 希望…生物教育大学入試問題検討委員会の順で回答することが承認された。
- 若手奨励賞の審査員の候補者
須藤雄気氏より女性率、若手奨励賞経験者、年齢などのバランスを考慮して候補者を選んだ旨の説明があり、原案のまま承認された。

5. 監事候補の選出について

野地博行氏より、監事候補として石森浩一郎氏と神取秀樹氏を推薦したいという説明があり、承認された。

6. 2021・22 年度理事候補の追加推薦について

野地博行氏より、追加の理事候補として、小島清嗣氏と西坂崇之氏を推薦したいという説明があり、承認された。

7. 功労会員、終身会員の 신설について

上久保裕生氏から功労会員と終身会員の 신설に関してこれまでの経緯と趣旨が説明された。議論の後、原案のまま承認され、6 月の社員総会で諮ることになった。

8. 会費に関する検討事項について

日本生物物理学会の学生会員会費が他学会に比べて高いため、今後学生会員会費をどのようにすべきか議論が行われた。今後しばらくメール審議を継続して行うことになった。

9. 2021 年度サブグループについて

須藤雄気氏より 2021 年度サブグループについての説明があり、経費の有効活用を図るためのオンライン会議システムの共用ライセンスに関する議論を経て、申請があった以下の 8 件が承認された。非会員の人には、入会してほしい旨を伝えることが重要であるという意見がでた。

- ①ゲノム生物物理学
- ②生体分子シミュレーション
- ③生物物理若手の会 輪読会
- ④人工細胞モデル&分子ロボティクス
- ⑤光イメージング若手の会「光塾」
- ⑥メカノバイオロジー
- ⑦生体分子ネットワーク探求グループ
- ⑧日本生物物理学会 次世代 NMR ワーキンググループ

連絡事項

原田慶恵氏より、次回理事会は、2021 年度定時社員総会第 1 回（野地氏を会長とする理事会）を 6 月 19 日に開催するとの旨が述べられ、参集の呼びかけがあった。

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 16:55 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

2021 年 4 月 24 日

一般社団法人 日本生物物理学会 2020 年度第 5 回理事会

代表理事	原田 慶恵 (印)
監事	笹井 理生 (印)
監事	豊島 陽子 (印)